高校放浪記

④《この愛にかける篇》

稲田耕三

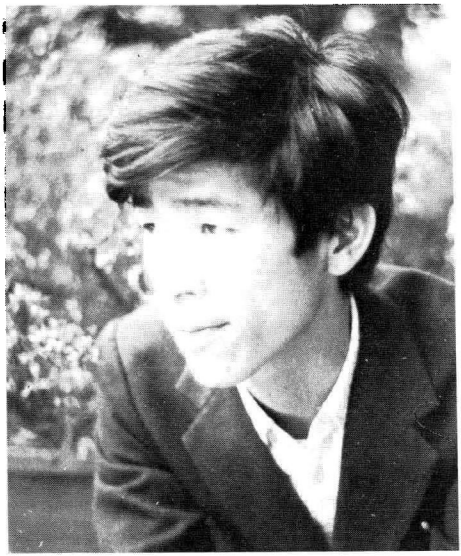
サイマル出版会

稲田耕三

④高校放浪記

《この愛にかける篇》

サイマル出版会



高校放浪記4　稲田耕三著

© Kozo Inada
THE SIMUL PRESS, INC. 無断転載を禁ず

（発行所）株式会社 サイマル出版会
発行人／村松増美　編集人／田村勝夫
東京都港区赤坂1-11-45興和第3ビル（〒107）
電話（03）582-4221（代）／振替・東京52090番
印刷・製本　凸版印刷株式会社

1973年　Printed in Japan　0395　040353－2703

読者の青春と重なりあって

——四巻完結にあたって

サイマル出版会編集部

七二年四月に第一巻を出版してから一年、『高校放浪記』は、水面にひろがる輪のように読みつがれ読み広げられてきた。続巻を出すごとに、新しい水輪が大きいうねりをつくってきた。

若い読者から圧倒的な共感と支持が寄せられたのをはじめ、新聞、雑誌、テレビ、映画の書評・紹介はもとより、青年の行動は理解しがたいとする世代からも、現代の青春とは何であるのかを知ることができた、というご意見や感想も数多く寄せられた。

これら全国の読者の声に励まされ力づけられて、稲田君と私たちは続篇を刊行してきた。

稲田君の『高校放浪記』は、この第四巻をもって完結する。しかし、稲田君の青春の放浪は終ることなく、いまも続いている。そして彼の記録は、読者の青春と重なり

あって、生き続けるであろう。

私たちはこの一年間、全国の読者諸君から、この記録を読んだ感想に合わせて、各人の生きかたや意見を本にまとめてほしいという強い要求を受けてきた。

そこで読者のみなさん！　完結にあたって、私たちは一つの提案をしたい。この機会に感想や意見、とりわけ読者自身の生きかたや青春についての手記を、私たちにお送りいただきたい（原稿枚数の制限はありません）。それをもとに、もう一つの、いや、さらに何冊ものさまざまな青春記録を編集してお届けしたい。　（一九七三年三月）

《原稿送付先》
〒107 東京都港区赤坂一―二―四五 興和第三ビル
サイマル出版会編集部『青春記録』係

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

高校生活と青春——読者のみなさんへ

ある日、当社編集部に、ぎっしりと書きこまれた上・下二冊のノートが送られてきた。それは、人びとを動転させた連合赤軍事件がおこる少し前のことであった。(上)と記されたノートの表紙には、こう書かれていた。

＊

人は私をバカだというかも知れません。またよく立ち直ったという人もいるかも知れません。しかし私が書きつづったのは、そんな評価をのぞんでではないのです。

義務教育最後の中学時代から、私はあらゆることに反抗しました。でも身にしみて矛盾を感じたのは高校に入学してからです。教育とは何なのでしょうか。私は県立高校を五校も転々としました。しかし今でもわかりません。私は自分の半生のうちで、両親や兄弟達の強い愛情を知らされました。父とは仇どうしのようにいがみあいましたが、結局は父に負けました。

私は数年前、ある高校雑誌に自分のことを書いてみたことがありました。小さな意見としてのせてもらったのです。ところが予期しなかった手紙を、全国から何百通ともらったのです。私はそれには返事を書きませんでした。返事を書くのがたいへんだというような

単純な理由でなく、私を理解していないラブレターまがいの手紙が大部分だったからです。しかし私は高校とはどういうものかを言いたいのです。私は不良といわれる人間を知りつくしました。私がたどった道、そう、

三重県立木本高校中退、鳥取県立米子東高校中退、和歌山県立星林高校中退、久保田鉄工退社、ニチボー宮川退社、三重県立宮川高校分校中退、和歌山県立新宮高校卒業。

ここで私の体験のみを述べてみましょう。ただ人の名だけは実名と仮名を混ぜて使ってあります。

一巻は木本高校退学までの不良生活。

二巻は米子・和歌山まで。

三巻は大阪・宮川まで。

四巻は宮川・新宮高校まで。

三重県員弁郡東員町大木町営住宅一ノ二一　稲田耕三

＊

和鳥賢三のペンネームで書き送ってきたノートを読みながら、私たちはなぜか心を動かされた。そこには大学受験に明けくれ、四無主義（無気力、無関心、無責任、無感動）につかっているといわれる昨今の高校生たちをとりまく精神生活のある断面が露出していたように思えたからである。「青春」と呼ぶにはあまりにもすさんだ反抗と、不安にさいなまれた心の孤独があった。教師を敵と思い、父を鬼とするその惨なるまでの敵意にみちた悲しさ。先生とは何か。教育とは、高校生活とは、親とは——と問い続ける稲田君をとり

囲む不信の環境と荒れた高校生活。

私たちは、彼の乱暴で粗野で、むきだしの反抗心が周囲のものを傷つけると同時に、自らの心をも傷つけてゆく高校放浪生活を赤裸々に記したこの二冊のノートのなかに、いまそれぞれの青春を生きている若ものたちの姿を見たのであった。

このノートは、荒々しいなかに切ない優しさを秘めた、ある青春の記録である。価値観が激変し、社会の、世代の亀裂が癒しようのないほど拡大しつづけ、なによりも教育のあり方と青春の意味が問われているこの時代。それを生きる感受性ゆたかな若ものたちを理解する一つの手がかりとして、親と教師、広く青年たちの行動を無謀ととがめ、その行動を否定する世の人びとに、私たちは一つの素材としておくりたいと出版を決断したのである。さらには、なによりも同世代の諸君のために。

ノートは和鳥賢三というペンネームで書かれていたが、出版にあたっては、稲田君との話し合いで、本人の社会的責任を明確にするうえから本名に戻し、関係者はほとんど仮名とした。見出しは編集部でつけたものである。

稲田君は新宮高校を卒業する前、六九年に結婚し、七〇年の安保闘争と学園紛争には、医大生の兄とともに東京で新左翼に加わって闘争に参加した。現在は二児の父で、大学へ行くために、学習塾を開きながら勉強している。

（一九七二年四月）

サイマル出版会編集部

高校放浪記④目次

〈第一巻／先生は敵、親父は鬼篇・目次〉

高校生活と青春
——読者のみなさんへ

第一部　俺にだって夢がある

1　泥をかぶったプライド
2　先生は敵や
3　何でそれが悪い
4　木竜会会則第一条
5　親父は鬼や
6　停学処分にされて
7　家　出
8　恋を砕いて

第二部　放浪の門

1　海に沈んだ太陽
2　俺の不良はしれている
3　心の中のサムライ
4　無期停学
5　卑怯者
6　せつない友情
7　思ったように生きてやる
8　涙がかれるとき
9　退学か放校か
10　あてどない旅立ち

〈第二巻／俺が狂っとるんやろか篇・目次〉

はじめての読者のために
（編集部）

第三部　俺が狂っとるんやろか

1　米子東高の春は冷たかった
2　年下の上級生
3　人間の幸せってなんだ
4　異性がほしい
5　やめられないタバコ
6　ティーチングマシン
7　異性不純交遊
8　狂ってるのはどっちや

第四部　なんのための高校生活

1　やっぱり俺は甘えん坊
2　女ってなんや
3　心の傷
4　浜辺の野宿
5　木高三勇士再会
6　気ままな生活
7　再び退学を覚悟して
8　「人間は一人なんやよ」
9　星林高校の二日目
10　後悔なんかするもんか

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

〈第三巻／孤独に寒さがしみる篇・目次〉

第三巻から読む諸君のために（編集部）

第五部　どうして俺を生んだんや

1　女を知ったあとで
2　溶鉄が夢を砕く
3　とうとう親父を殴った
4　母ちゃんにも見捨てられ
5　明日が見えない
6　「耕三、死ぬのがこわいんか！」
7　女のアパート
8　まだ定時制がある

第六部　虫ケラになってたまるか

1　母のうしろ姿
2　ニチボー宮川男寄四号
3　病みはじめた身体
4　気になる学歴
5　一人ぼっちの入院
6　いばるな大卒野郎
7　拒絶する高校の門
8　宮川高校編入生となる

読者の青春と重なりあって……（編集部）
——四巻完結にあたって

第七部　嵐の最前線

1　屈辱をこらえて……三
2　ラグビーに灼きつくせ……一四
3　異常なセックス……二五
4　「ここは地獄や」……三六
5　白紙の答案……四七
6　学生運動に突撃……五七
7　割れた赤ヘル……六七
8　台風のなかをつっ走れ……七六
9　学生服事件……九一

第八部　常識なんかくそくらえ

1　犬死はごめんだ……一〇三
2　全国の高校生諸君！……一一七
3　あいつは俺の女房になる……一二五
4　焦　燥……一三六
5　この愛にかける……一四九
6　退学勧告のなかの反問……一六四
7　新宮高校生梅田耕三……一八一
8　同棲生活……一九四
9　二人できずくバリケード……二〇四
10　母が手にした卒業証書……二一四

第七部　嵐の最前線

1 屈辱をこらえて

阿田和に帰った私は、うれしくてたまりませんでした。

『とうとう、高校生になることができた。もう、勉強だけすればええんや。医学部めざしてガンバルぞ！ 俺は幸せな男や。好きなことをやってきて生きてこられた。このへんでバリバリ勉強するぞ。くそったれ！ バンザーイ』

一度に自分の歩く道が明るくなったのです。

父との夕食時も、楽しいものでした。

「耕三、父ちゃんは、主任さんにお前が病気やった言うてうそをついたことが一番気になるわ。すぐバレるうそやぞ」「なんで、そんなこと言うんや。俺も気になるけど、あの分校からいい大学へ入って分校の名を高めてやったら、それで、俺は主任さんがよろこんでくれると思うで。つきたくてついたうそやないもんね。俺は今、自分から

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com